

審査員奨励賞

小斎小学校 3年 目黒 あや

表題「ごんぎつねを読んで」

書籍名『ごんぎつね』

わたしが、ごんぎつねをえらんだ理由は、ごんぎつねがどんな子か、どんなふうにかわっていくのか、気になったからです。そして、かんたんにどんな話かというところ、ごんがとうがらしをむしったり、せっかく兵十がつた魚をにがしたりして、みんなをこまらせていました。うなぎやきすをにがして、お母さんがしんでしまったから、さいご兵十にくりやまつたけなどをあげて、あやまるかわりにしていました。何日かして兵十に見つかってこるされてしまいます。

ごんは、たぶんいたずらをしているとき、楽しい気持ちだったと思います。なぜなら、こまっているのを見たらわるいと思うけど、ごんはいたずらをやめなかったから楽しかったんだと思います。

魚をにがしたとき、ごんはさいしょは楽しい気持ちだったと思いました。でも、さいごはダメだったと思ったとわたしは思います。なぜなら、魚をごんがにがしたとき、お母さんはうなぎを食べられないまましんでしまったからです。ごんは、そのときあやまらなかつたけど、わたしだったらあやまると思います。「うなぎとかきすとかにがしてごめんなさい。お母さんにうなぎを食べさせられないまま、お母さんしんじやってごめんなさい。」と言うと思います。でも、ごんがそのように言っても、兵十はゆるすかもしれないけど、ころすかもしれないです。それでもわたしがあやまるのは、わるいことをしたらあやまるのは当然だし、ゆるしてもらうためにあやまるわけではないからです。もしも、わたしが兵十の立場だったら、お母さんがしんだのはごんのせいだからゆるせないと思います。でも、ゆるしてあげたいです。

わたしは、わるいことをしたらしっかりあやまって、次からそうしないようにど力したいです。そして、あやまられたらゆるせる人になりたいです。